

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 博士前期課程		
氏 名	山本 悠介	学籍番号	0951027
論 文 題 目	研究グループにおける文献を基にした情報共有に関する研究		
<p>要 旨</p> <p>共通の研究領域を持つ研究グループ内では、先輩研究者の研究成果は論文などにより伝承可能であるが、その研究活動自体も伝承できればさらに効果的に研究を拡大・発展させることができる。しかし電子図書館の書誌情報には文献を執筆した研究者の文献調査活動に関しては記述されていない。そこで、共通の研究領域を対象として取り組んでいる研究グループ内では、先輩研究者の文献調査活動から有益なアイデアを受けることができると考えられる。</p> <p>文献調査活動は文献を調査した研究者によって、様々なスタイルが存在する。そこで多岐にわたる文献調査活動を表現するためには、明確な指標が必要だと考えられる。本研究では、文献調査活動で調査した文献とその研究者の関係を表現するために、研究者によって異なる文献調査活動の指標化を行い、提案指標が研究者の文献調査活動を伝承できることを評価し、研究グループにおける文献を基にした情報共有に関する手法を構築することを目的とする。</p> <p>まず多岐にわたる文献調査活動を表現するために、一般的にモデル化された研究活動から指標を抽出する必要がある。本研究ではゼミ活動のモデルから文献調査活動を表す指標(入手経路, 調査度合, 調査活動, 成果物)を抽出した。そして抽出した指標を実際の文献調査活動にあてはめ、先輩研究者の文献調査活動をほぼ分類可能であることを確認した。また、提案指標により分類された文献調査活動が研究グループ内で継承できることを確認した。その結果、既存の参考文献リストよりも調査度合, 調査観点, 成果物は研究情報を他の研究者に伝承できる事を傍証した。分類結果を分析すると、2次元表示では調査度合と調査観点を組み合わせると、研究者が着目した観点の中でも調査の深い観点が指標によって測定できることを明らかにした。</p> <p>本研究では、先輩研究者の文献調査活動の中で着目した観点と調査の深い観点を指標により、表現可能にした。また文献と文献調査活動を共に伝承していく方法を提案した。</p>			